27AB-pm422

日向薬（くすり）事始め（その 19）―日向における種痘の歴史－再考（Ⅶ）、もう 1 つの若山健海著（代筆、陶山勲藏）明治六酉載「種痘人名録」について（1）―

○山本 郁男[1], 岸 信行[2,3], 高村 徳人[3,4], 宇佐見 則行[5]（[1]元九州保福大薬, [2]宮崎・日向・富高薬局, [3]九州保福大薬・QOL 研究機構, [4]九州保福大薬, [5]北陸大薬）

【はじめに】先に、我々は日本薬史学会 2014 年会（福岡）[1)]において嘉永 2（1849）年 3 月 6 日記の若山健海著、「種痘人名録」（以下①）について、その信憑性を検討報告した。何故なら、伊藤卓雄[2)]は種々の理由から翌年、すなわち嘉永 3 年の健海の誤記であると強調している。その理由の 1 つが、今回報告する明治 6 年に記された「もう 1 つの種痘人名録」（②）である。これら①と②の両者を比較検討するに幾つかの謎があることが判明した。【結果・考察】②は表題「牧水祖父種牛痘之原始と種痘人名録、陶山勲藏」と書かれており、①と異なり健海の自筆ではない。陶山勲藏は健海の孫、すなわち若山牧水（歌人）の姪の夫である。②の「種牛痘之原始」は長いので省略するが、末尾には「嘉永三戌初春崎陽之師到テ楢林宗建伝受於是術而蘭人 Monike 観於 Koepok 之枹術帰テ宮崎中邨興福島退庵接痘年数テ今二十有余歳接痘人数大斤二千餘人、明治六酉載　坪谷邨　若山健海識」。一方、①の方は簡単に「種痘 Monnickei 君為師得是術而帰テ宮崎施之連名」、続いて「三月六日、福島退庵忰　鯉一郎 5、若山健海忰　立造 6・・・」とある。両者の明らかな相違は、種痘を実施した時期にある。伊藤が指摘するのはこの記述であるが、我々は①を翻したのは、何らかの深い理由があると考えている。幕府は嘉永 2（1849）年 3 月に「蘭方医学禁止令」を出しており、この禁を解いたのは安政 5（1858）年である故に政治的背景が一要因と考えられる。健海は嘉永 2 の①では 38 歳、明 6（1973）年②では 62 歳であるもまだ老境にあったとはいえない[3)]【謝辞】①および②の資料を御提供頂いた牧水記念館館長荒砂正伸氏に深謝する。

【文献】1) 山本郁男他、日本薬史学会 2014 年会（福岡）、2) 伊藤卓雄、沼津市若山牧水記念館報、第 38 号、p-8（2007）、3) 山本郁男、日向の医人達－日向医薬事始め、㈱ながと（2012）